

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000239		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームあかし魚住東		
所在地	明石市魚住町錦ヶ丘3丁目4-13		
自己評価作成日	H26年1月	評価結果市町村受理日	2014年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	peeri_zushi@coral.plala.or.jp
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	平成26年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街にあり、地域住民の一員として回覧板が回ってきたり、地域の取り組みへの参加を促して頂いたりし、明石地域のなかでまんてん堂を認知されている。また、ご家族様の来訪が多く、ご入居者様と、ご家族様、スタッフとの連携が上手く循環し今後も多様にわたっての信頼関係を崩すことなく、一步一步継続して行きたい。職員のご入居者様に対する思いが熱いです。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念である「自分の親に受けさせたいと思える介護サービス」「自分自身が受けたいと思えるサービス」「今の子供たちに自信を持って継承してもらえる施設」の実現を常に目指している。そのために、手間ひまかけた手厚い介護、利用者のペースで過ごしてもらうこと、一人ではないことを実感してもらうこと、他人同士の空間が楽しいものであること、を心がけて支援している。法人内に多くのグループホーム、小規模多機能型事業所があり、情報交換や勉強会を行い、職員のスキルを高めている。スタッフに利用者の目線で考える姿勢が定着してきており、利用者は元気である。今後は関わりがむずかしい周辺環境ではあるが、地域交流に前向きに取り組んでいくことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まんてん堂全体の理念があるが、地域密着型サービスの運営理念があり、玄関に閲覧出来るようにしている。職員全員が共有することは今後の課題である。	家族に折にふれ利用者の暮らしぶりや写真付きのお便りを送るなどして、報告する際に理念を振り返る機会としている。管理者がことあるごとに理念について話し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加を行い、地域の回覧板が届き、情報などを頂けている。	地域住民と顔を合わす機会が得られにくい周辺環境であるが、自治会に加入して、回覧板をまわすことによって、顔なじみになっている。出会った時は元氣よく挨拶することを心がけ、公民館で毎月1回開かれる歌声喫茶に参加するなどして、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ゾーン会議(地域会議)に参加し、認知症の勉強会などを行い、地域の皆様に知っていただく取り組みをこちらの方でしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での貴重なご意見をいただき、議事録を玄関に閲覧できるようにしている。会議内では、利用者さまやサービスの内容などをご報告させて頂いている。	家族から業者の駐車マナーが悪いとの意見を受け、改善が図られた事例がある。自治会長は必ず出席して地域の情報提供がされる。家族の参加も多数あるが、市担当者、地域包括支援センターは出席を依頼するが実現していない。	今後、市担当者の出席について、地区のゾーン会議で提案が予定されているが、グループホーム連絡協議会からも組織的な要請をされてはかがが。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	明石市の方より、『ふれあい介護員』の方が2名こられており、ご入居者様とお話をしてくれたり、している。	法人本部が事務的な連絡を行っているため、事業所は利用者の申請手続き程度の関係である。事業所のパンフレットは市、地域包括支援センターに配布している。	「ふれあい介護員」に運営推進会議への出席を働きかけて、市との橋渡しとして活用してはどうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社の方針で、防犯上のため施錠を行っている、	法人全体の新人研修のカリキュラムに組み込まれている。年に1回事業所で具体例を上げて、質問形式の研修を行っている。身体拘束はしない方針である。会社の方針で玄関の施錠をしているが、施錠をしない提案を根氣よく続けている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時研修の一環とし、事業所内でも研修を行うようにしている。	法人全体の新人研修のカリキュラムに組み込まれている。職員に不適切ケアを行っていないか、振り返ることを促し、カンファレンスで話し合っている。管理者は言い続けることを心がけている。介護主任が個別面談して職員のストレス解消に努めている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度事業所内で研修を実施した。現在は権利擁護利用のご入居者様はおりませんが、今後も継続を	外部研修で学んだ職員による内部伝達研修を予定している。法人施設内に制度を利用している利用者があり、実例で学ぶことができ、専門家につなぐ程度まで理解している。日常生活自立支援事業(「りんりんネット」)は理解している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけ、御家族様への説明、ご質問などをしっかりお聞きし、契約を実施している。先日、薬局の変更を行った際にも、すべてのご家族様へご説明を行い、ご理解、ご了承を頂けた。	管理者が行っている。事故対応や持ち込み物品について、ていねいに説明している。体験利用も可能である。利用者にも納得してもらうよう努めているが困難な場合は面談時の職員が同席するようにしている。変更事項は運営推進会議で説明し、欠席者には文書を用意して個別に説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族様からのご意見を頂いている。	病院の対応について、改善を求める意見が出され、現在、病院と連絡を取りながら、改善を図っている。また、アンケートも実施している。個別のケアプランに関する意見はケアプラン上で反映するようにしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は聞く機会を面談や、日常の会話で引き出し、管理者MTGなどで管理者同士が話し合う機会がある。	3ヶ月に1回行っていた管理者との個別面談を月1回実施予定している。休憩時間の確保や職員が異動した場合の補充についてなど、意見は多く出る。休憩時間については、勤務体制を変更して改善を図った。代表者が年1回事業所を訪問して、直接声かけをして聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各事業所の状況報告等を管理者から代表者へ伝わるような仕組みの『執行役員制度』を昨年より実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の本部指導のステップアップ研修や、ケアマネ、介護福祉士等を受験する、資格習得サポート研修を実施している。また、職員受けてみたい研修等を勤務調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と勉強会など、地域のGH連絡会などで企画をして発信は頂けるが、参加までには至らず。ただし、社内事業所同士の交流会は開催している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談でお話をお聞きさせて頂き、ご入居頂いたあとも、アセスメントを心がけ、本人の要望等をお聞きしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談でお話をお聞きさせて頂き、ご入居時にもご不安なことやご要望などを詳しく聞きし、内容を職員へ伝達している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者様の暮らしに必要な支援を見極め、当面の介護計画書を作成し、対応している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は『共に暮らす』事を教育している。介護職員としてだけでなく、ご入居者への心配りが出来るよう思いを共有している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時にご本人様の様子をお伝えさせて頂いたり、話しやすい環境作りに努めている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や、馴染みのお店に行かれ、今までのお付き合いを継続されている方もおられる。知人の来訪もあり、関係性を継続させて頂いている。	孫と一緒に行きつけの美容院へ行ったり、好きな穴子の常店やいつも食べていたようかんを買いに行く利用者がいる。法事やお墓参りにでかけることもある。昔の仕事仲間が訪問するなど馴染みの関係継続が図られている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良いご入居者様同士で挨拶や会話をされている。また、ご自分から馴染めない方は職員が仲介に入り、日々交流がある。		

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のグループホームへご入居された方には職員が顔を見に行かせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様の行動には意味があることを常に考え、支援させて頂いている。本人様の今の暮らしに何が足りないのかを職員同士話し合いを持っている。	利用者の行動を見守りながら観察して読み取っている。夜、歩きまわり、台所で何かさがしている利用者に対して、なぜ、そのような行動をするのか、考え、問いかけてみる。また、過去の暮らしぶりを聞くなどし、それらを記録に残してスタッフ全員で話し合い、利用者の思いをくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報を作成している。ご入居前に関わりがあった事業所にお聞きし生活環境を支援できるように勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様のADL表を作成し、身体状況の把握を再度行えるよう取り組んでいる。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員とカンファレンス等で話し合い、主任と計画作成担当でモニタリングを実施している。今後の課題として、職員でのモニタリング作成が可能になるよう、発信していく。更新時には本人様、御家族様の意向を確認している。	カンファレンスでの話し合いをもとに、モニタリングを実施している。見直し時に家族、利用者に参加してもらうことにより、具体的な支援内容となっており、利用者の要望にそったサービス計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録作成と、申し送り伝達を行い情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	鍼灸マッサージを希望された方には週に1～2回来ていただいている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや、2ヶ月に1度の歌声喫茶に参加させて頂いている。今後は図書館にもご要望をお聞きし、出向いて行けるよう取り組む。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医療機関以外のかかりつけ医に通われている方もおられる。日常の往診医と連携を行って頂いている。	これまでのかかりつけ医の受診を優先しているが、現在は、ほとんどの利用者が協力の往診医療機関を利用している。服薬変更や状態変化等があった場合は、随時説明があり、家族にとって安心できる体制となっている。歯科往診も利用できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は月に2回来て頂いている。事前情報を作成し、相談をし、アドバイス等頂けている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医療機関に入院された方への情報交換は行っている。他院へ入院された方へはADL表で情報提供行っている。	往診医療機関への入院だけでなく、他医療機関への入院の場合も、スムーズな連携が図られている。入院の場合は、職員が見舞いに行き、利用者、家族の不安をなくすよう心がけ、早期退院に向け受け入れ体制を整えている。骨折の場合は、早期退院が生活リハビリにより可能である。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設後、終末期の対応は行っていないがカンファレンスを用い状態の変化時に対応方法等話し合う時間を持っている。	契約時に、本人、家族の意向を確認し、事業所の方針についても説明している。万全な医療体制があり、重度化や終末期への対応を検討しているが、文書化には、まだ至っていない。家族と一緒に過ごせ、安心して寄り添える環境と職員の関わりを目指している。	家族が安心できる職員のチーム体制の整備に向け、今後の具体的な検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時にチャートを用い、連携している。また、管理者へ連絡し、指示を仰ぐようにしている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を実施している。	現在、年2回実施の訓練を4回に増やしていく予定である。消防署立ち会いで、夜間想定訓練を実施したことを踏まえ、今後活かしていきたいと考えている。近隣へは、訓練実施の案内を回覧しており、今後、協力を仰ぐ働きかけを検討している。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時研修の際にご入居者様は人生の大先輩であるため、尊厳を持ってお声掛けをするように伝え、現場でも職員同士で言い合える環境がある。	管理者は、入社時研修から継続して適切な言葉かけや対応について、繰り返し職員に伝えていく。職員面談時に、アンケート結果を踏まえ、個別に話しをすることもある。自分を利用者として置き換えてみることを伝え、利用者の立場になって考えることを普段から大事にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様の食の好みやお茶の好みに合わせたものを提供させて頂いたり、生活の支援にもご本人様にお聞きすることを優先とし、自己決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、買い物、外出等、伺いながら支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の希望があれば、行きつけの美容院や、床屋さんに同行し、出向いて頂いている。行事の時や、外出時のお洒落をご自分でされることもある。入浴時の着替えもご自分で用意されている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットご入居者様のカラーもあるが、ご入居者様と職員と一緒に準備したり、関わりを持ちながら、行っている場面が多い。ご自分で下膳される方もおられ、ひとりひとりが出来る事をしている。	法人一括により、食材が配達され、利用者も一緒に盛り付けや配膳、後片付けを行っている。一人ひとりの習慣や役割が活かされ、その人なりのやり方を尊重している。職員は、個別に介助として関わってはいるが、一緒に食事は取っていない。	利用者にとって食事はやはり楽しい時間であるので、一緒に同じ物を食べる機会をできるだけ設けて、より楽しみの時間としていただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前から少食の方や見た目が多量と長が進まない方へは食べやすさを配慮し、水分の少ない方へはお好きな物、飲んで頂けるものを提供し、チェック表を作成している。体重測定をグラフ表にして変化を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアを声かけさせて頂き、促すようにしている。ご自分から進んでされる方もいる。全て職員の介助ではなく、出来るところまでご自身で頂く。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立以外のご入居者様の尿意・便意のあるかたは希望時にトイレ誘導をさせて頂いている。不明の場合は排泄間隔を考慮し、対応させて頂いている。	排泄に不安を感じている人には、必要に応じて声かけて誘導している。その人の習慣やタイミングを把握し、さりげなく誘導することもある。家族の希望で夜間はおむつ使用の人もいるが、トイレに付きそうこともあり、トイレでの排泄を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時のヨーグルトや果物の提供やオリゴ等を使用している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者様のご希望をお聞きし、入浴のお声かけをさせて頂いている。毎日ご希望の方も対応させて頂いている。	1日に3人から4人を目安に、入浴してもらっている。時間は決めず、その日の体調や気分を優先し、声かけすることもある。毎日や寝る前、好みの入浴剤の利用など、それぞれの希望に応じ柔軟に対応している。体調に不安な人は、看護師と連携して状態確認を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前の入浴対応や、夜間、空腹での不眠を訴える方にも、軽い食べ物を提供する等、就寝時間等は決まっておらず、御本人の安眠環境を優先している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の開示がしやすいようにし、薬によって禁止物がある場合、徹底していき、2名確認、本人の前で再確認し服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	当日の食事メニュー書きや、カラオケ外出など、楽しみや日課への支援をさせて頂いている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散髪、買い物、散歩、お墓参り等、様々な場面での外出を支援させて頂いている。	利用者一人ひとりの希望に応じて、できるだけ支援している。馴染みの散髪に行ったり、食べたい物や外食にも応じている。近隣の公園に毎日散歩に行っている人もおり、職員が付き添っている。敷地内の畑や花の手入れも兼ね、外気浴も積極的に行っている。家族の協力を得て、一緒に外出することもある。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお財布を所持し、金銭管理をいっておられる方は1名で、その他の方は、立替払いにより、購入されている。御本人の安心の為、ご家族様へお聞きし、無くしても良い金額を所持されている方は数名おられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話をお使い頂き家へ連絡される方や、季節ごとのお手紙等をお出しになれる方もいらっしゃいます。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感を出すために、フロアに写真を掲示したり、季節ごとの飾りつけを行っている。また、居心地良きたたみで昼寝が出来る環境がある。	家庭的な雰囲気や大事にし、飾りすぎないよう季節感を感じられる掲示にとどめている。ソファークーナーや和室のこたつでくつろぐなど、思い思いに過ごしている。玄関入口には、季節の花を置き、ほっとできる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろぎを好まれる方が多く、気の合うご入居者様同士で過ごされており、畳のこたつを好まれる方も職員と一緒に楽しく過ごせるように環境を作っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に仏壇を置き、毎日拝まれているかたもおり、自室内がご自身のもので囲まれている空間への配慮をしている。また、御家族様にもお願いしている。	事業所は、馴染みの物を持ってきてもらうよう、利用者、家族に働きかけている。その人らしい部屋になるよう手作り作品や写真も飾るなどして、工夫もしている。使いこまれた茶碗や身の回りの品が置かれ、ほっとした居心地の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレはわかりやすく、『使用中』『空いています』の札をご入居者様がお書き下さり、付けている。		